



【調査の目的】

- 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

【調査の概要】

- 実施日：令和4年1月13日（木）
- 「大阪府」とは「大阪・公立学校」の結果を表しています。
- 中学2年の「社会」はA・B2種類の選択問題があり、本市では全校が問題Aを選択しました。
- 中学2年の「理科」はA・B2種類の選択問題があります。

・実施校数及び実施生徒数
 中学1年：17校(2,555人)
 中学2年：17校(2,585人)

※1校の結果については後日実施のため、本市全体の結果に反映されていません。

- ・学力に関する調査
 中学1年：国語・数学・英語
 中学2年：国語・社会・数学・理科・英語
- ・生徒に対するアンケート
 全学年で8問

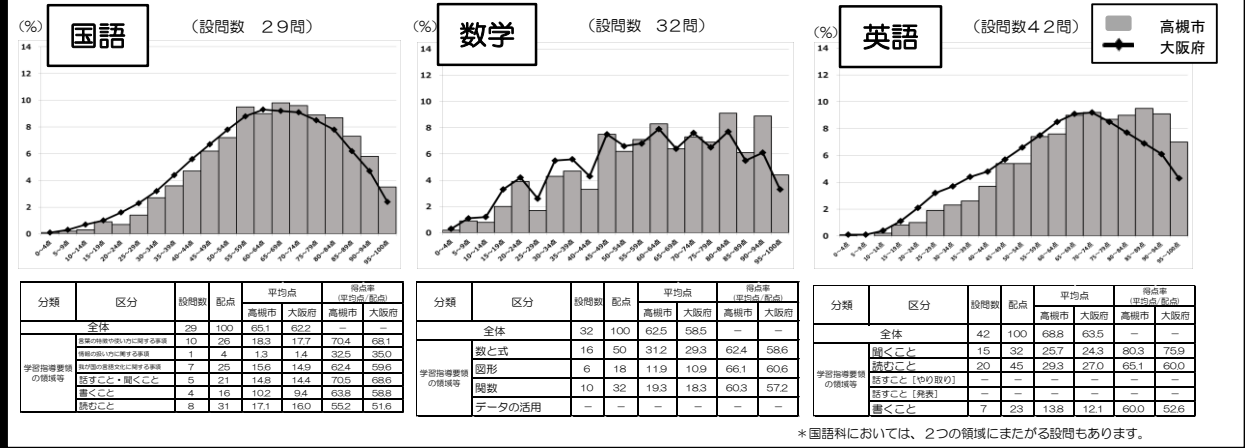
【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように十分配慮をお願いいたします。
 調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

学年・教科	令和3年度（点）			
	高槻市	大阪府	差（対大阪府）	
1年	国語	65.1	62.2	2.9
	数学	62.5	58.5	4.0
	英語	68.8	63.5	5.3
2年	国語	61.2	58.8	2.4
	社会	52.5	52.2	0.3
	数学	63.5	60.1	3.4
	理科	56.9	53.6	3.3
英語	62.5	58.5	4.0	

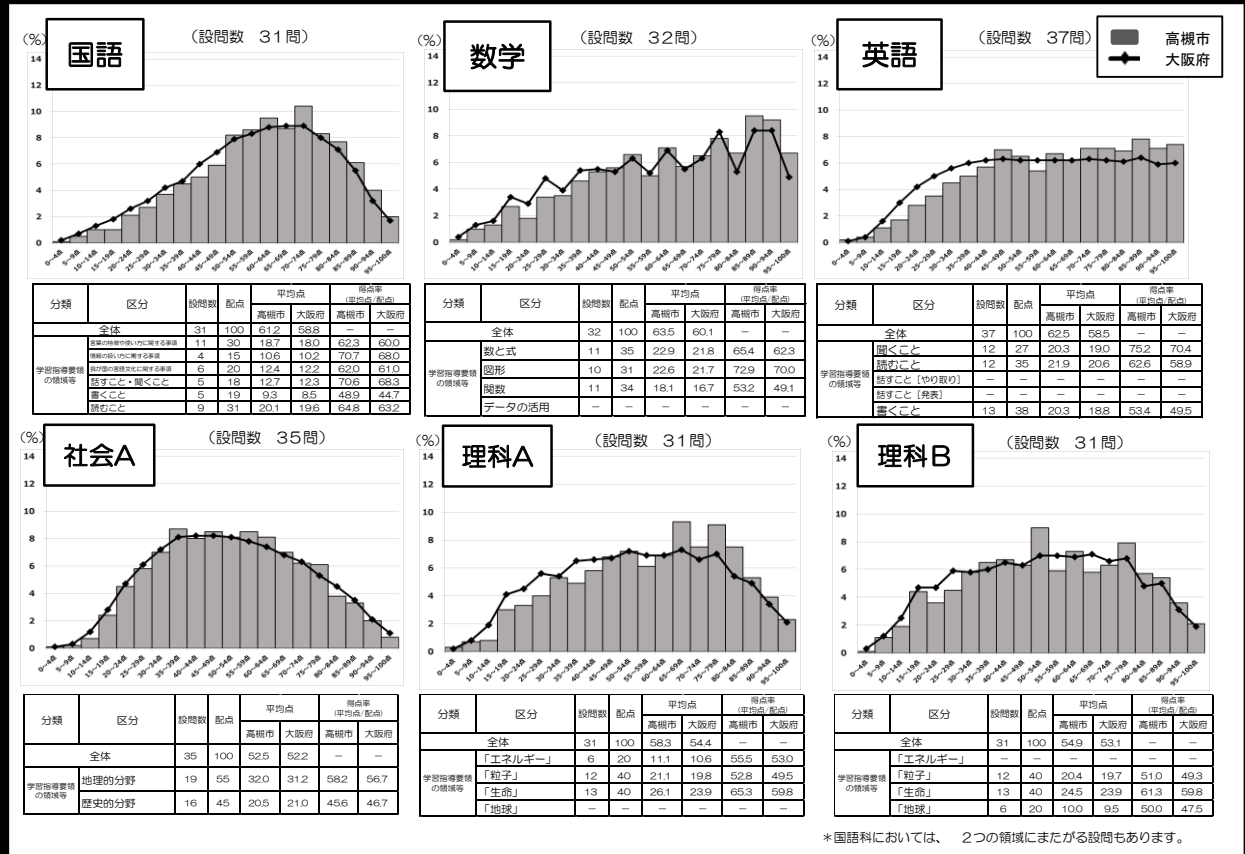
得点分布グラフ 横軸：得点(点)、縦軸：割合(%) 領域別平均正答率/ 対大阪府比

第一学年



*国語科においては、2つの領域にまたがる設問もあります。

第二学年

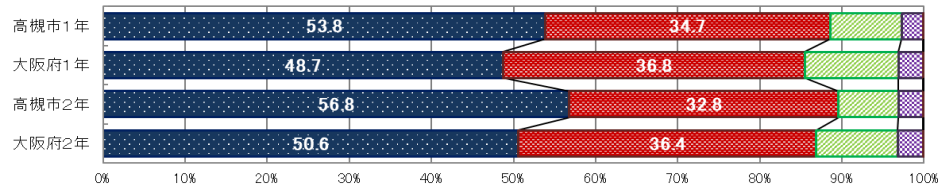


*国語科においては、2つの領域にまたがる設問もあります。

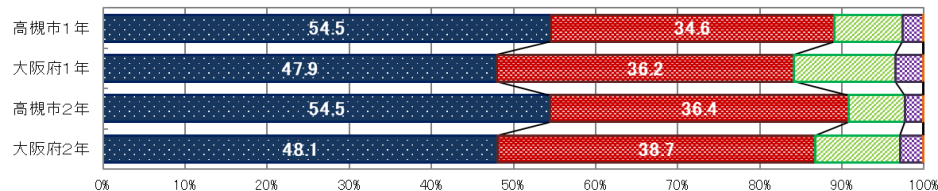
令和3年度中学生チャレンジテスト 生徒に対するアンケートの結果

■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない ■その他 □無回答

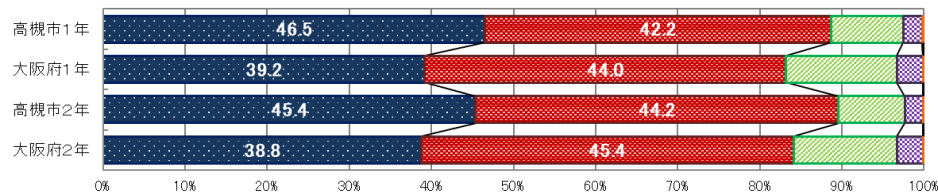
1 授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



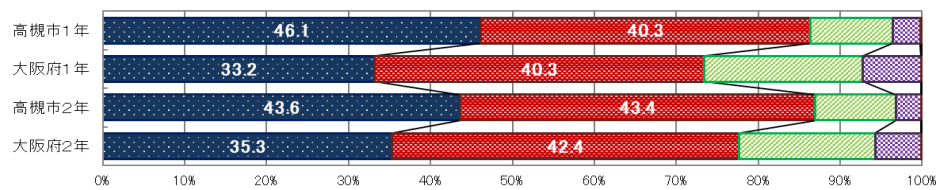
2 授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



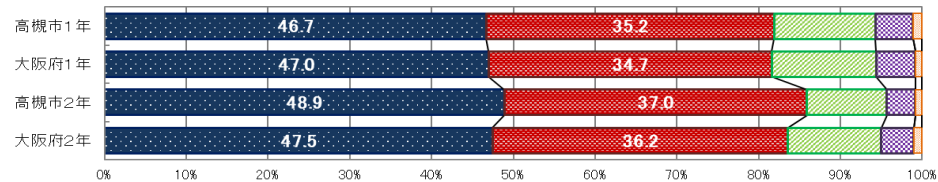
3 授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



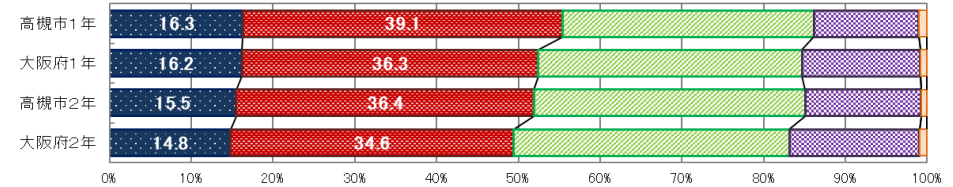
4 授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



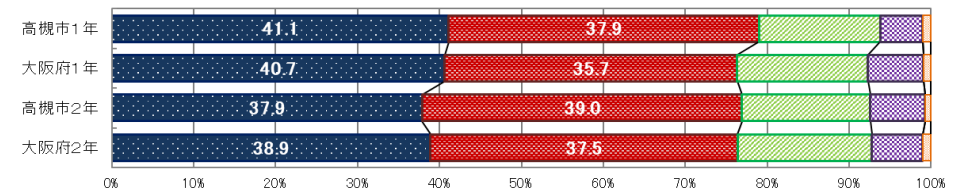
5 授業中、間違っても笑われない。



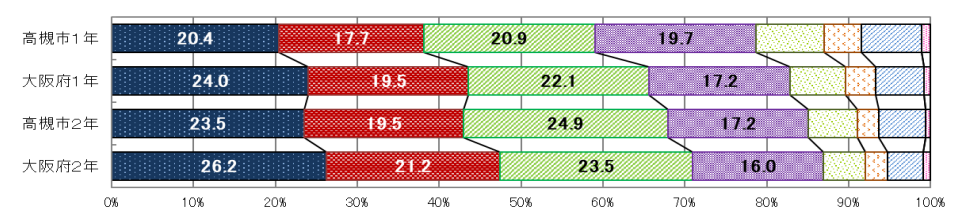
6 自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



7 テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。



8 普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間より少ない
- 3. 2時間以上、3時間より少ない
- 4. 1時間以上、2時間より少ない
- 5. 30分以上、1時間より少ない
- 6. 30分より少ない
- 携帯電話やスマートフォンを持っていない
- その他
- 無回答

【各教科の結果について】

- ・第1学年では、3教科ともに調査内のほぼ全ての領域・関連において大阪府平均点を上回りました。
- ・第2学年では、5教科ともに調査内のほぼ全ての領域・関連において大阪府平均点を上回りました。

【生徒に対するアンケートの結果について】

- ・1～7までの質問において、第1、2学年ともに肯定的な回答が大阪府の平均値を上回りました。
- ・8の質問においては、「3時間以上」の使用時間について大阪府の平均値を下回りました。

* 肯定的な回答とは、選択肢のうちの「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した合計のことです。